

事業所名	Blossamジュニア 横浜南山田教室			支援プログラム(児童発達支援)	作成日	2026 年	2 月	1 日		
法人（事業所）理念	個性を伸ばし未来を創る									
支援方針	言葉でのやり取りを大切にします。 保護者とのやり取りを大切にします。 知育やSSTを通し、できる喜びを増やします。									
営業時間	9 時		30 分 から		17 時	0 分 まで		送迎実施の有無	あり	なし
	ねらい				支援内容		具体的な活動や支援内容			
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得				(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから身の真意に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の確保 感染症、食中毒、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を覚む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自動具等に関する支援を行う。さらに、病院の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活年令の獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 機能化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。		来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。給りの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。振り返り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着脱、着替えなど）の習得を支援し、教員の目線に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。 ・水筒やお弁当、箸箱やプリント類を所定の場所に入れるだけでなく、使用後に元の場所に片づけるよう声掛けを行う。 ・ランドセルの中を確認し、プリント類が整理整頓されていない場合は一緒に連絡帳に片づけることを習慣化する。			
	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の総合的な活用				(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自らの身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する感覚、触覚、聴覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の過敏及び感覚手段の活用 保持する感覚器官を用いにくい状況を把握しやすくするよう聴覚や触覚器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		体操などをを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。パーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聞くことや聴いて理解する力を促します。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にバランスクッションをおいて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼ってつけられた場所を指したり、シールを剥がすなどの活動を行う。 ・集団学習では動作を通して数詞運動、しっぽ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。			
運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の総合的な活用				(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自らの身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する感覚、触覚、聴覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の過敏及び感覚手段の活用 保持する感覚器官を用いにくい状況を把握しやすくするよう聴覚や触覚器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		体操などをを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。パーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聞くことや聴いて理解する力を促します。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にバランスクッションをおいて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼ってつけられた場所を指したり、シールを剥がすなどの活動を行う。 ・集団学習では動作を通して数詞運動、しっぽ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。			
	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得				(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知識から行動への認知過程の発達 環境から情報を取直し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、色、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、量、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の種々の特性に配慮する。また、このわりや発達に際しては支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。		買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 ・感覚のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えるなどのやり取りを通して ・一対一で練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸してもらえ環境や少し待ては順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせて、次の見直しを立てて順番を待つ等のスキルの定着を図り、感覚のコントロール方法を学んでいく。			
本人支援	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得				(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知識から行動への認知過程の発達 環境から情報を取直し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、色、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、量、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の種々の特性に配慮する。また、このわりや発達に際しては支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。		買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 ・感覚のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えるなどのやり取りを通して ・一対一で練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸してもらえ環境や少し待ては順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせて、次の見直しを立てて順番を待つ等のスキルの定着を図り、感覚のコントロール方法を学んでいく。			
	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用				(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 発音言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人ととの相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階の子と並んで、得意の特性に合った読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各個人の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が可能にできるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややり取りを通して人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらこぼの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学べる環境を提供し、日常生活や活動で頻りにことばや概念を使う機会をつくります。また、「聞して」「いっしょに遊ぼう」などのやり取りを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 ・本児の興味、関心のある好きな活動やおもちゃを用意して発声しやすくなる環境を整え、職員がモデルを示すことで発音を促す。 ・集団活動を通して他児に対して自身の要求を伝えることが出来るよう、簡単なハンドサインや「貸して」「ちょうだい」「いれて」などの言語表出をする環境を設ける。			
言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用				(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 発音言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人ととの相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階の子と並んで、得意の特性に合った読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各個人の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が可能にできるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややり取りを通して人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらこぼの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学べる環境を提供し、日常生活や活動で頻りにことばや概念を使う機会をつくります。また、「聞して」「いっしょに遊ぼう」などのやり取りを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 ・本児の興味、関心のある好きな活動やおもちゃを用意して発声しやすくなる環境を整え、職員がモデルを示すことで発音を促す。 ・集団活動を通して他児に対して自身の要求を伝えることが出来るよう、簡単なハンドサインや「貸して」「ちょうだい」「いれて」などの言語表出をする環境を設ける。			
	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加				(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を築き、命延び人と人間関係を築き、その信頼関係を基礎として、異國の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 積極的行動の支援 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 受容的行動からの積極的行動への支援 環境刺激をきっかけに遊びや運動機能の動きを促す遊びから、見立て遊びやおもい遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから協調遊びへの展開 周囲に子どもだけでなく仲間である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う進歩的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分のことで、できないことなど、自分の行動の特性を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。		事前に視覚的な手掛かりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。少人数での体験やゲームなどの活動を通して、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるように、職員がモデルを示します。 グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わりながら遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。こっこ遊びや共同遊びを通して、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びながら行動やこぼのモデルを示します。 ・職員や他児との挨拶やハイタッチを行うことにより、視線を合わせて聞く姿勢をもつ。 ・また集団活動を行う上で、職員や他児の模倣をして他者に興味や関わりを持ち、人間関係の地盤を構築する。			
家族支援	・個別療育や集団療育にいった活動の内容を送達時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングでは別面談の機会を設け、保護者に共有を行います。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。				移行支援		・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子や他事業所や相談支援に、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校(保育園・幼稚園)への送迎時、先生と学校(園)での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。			
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連絡会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関する提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。				職員の質の向上		Blossamグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門家によるスキルアップ研修 ・資格取得支援 ・研修成果定着支援 ・感情対話研修 その他 児童観ミーティングにて他教員との情報・意見交換実施			
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動									